

算数・数学分科会

I 研究のあゆみ

4月22日(火)	2025年度名教組教研オリエンテーション (2025年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月8日(木)	研究計画の検討	【教育館】
5月27日(火)	研究内容の検討(第1次実践)	【教育館】
6月20日(金)	研究内容の検討(第2次実践)	【教育館】
6月下旬~8月中旬	全体会は開かずに、グループごとに検討	
8月19日(火)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【教育館】
9月20日(土)	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

今回、発表されたり報告は、「ナゴヤ学びのコンパス」にある、子どもが主体的に学び、自ら考える力を育むための実践が多く、個別最適化や自由進度といった、子ども一人ひとりの成長を重視した実践が中心であった。具体的には、子どもが自ら問いを見出すことができる導入場面や教材の工夫、考える楽しさを体験できる話し合い活動の充実、自分の考えを広げたり深めたりする振り返り活動の工夫等が発表され、今後の授業に活用できる多くの実践例が示された。

1回の授業で実践をするのではなく、単元の指導計画において全体指導と自由進度を効果的に配置し、一人ひとりが自分の進度で学習を進めたり、自ら見出した問題を個別で解決し共有したりする実践が見られた。単元を通して使用するポートフォリオや学習計画表などを取り入れ、子どもが学習の見通しを立てたり、自分の意志で学習内容を決定したり、また、学習を振り返って次につなげたりする、主体性が重視された学び続ける子どもの姿が発表されていた。

意見交流では、「これからの社会で生きる子どもたちに、算数・数学で大切にしてほしいこと」というテーマで、積極的に話し合われた。近年、生成AIの発達や活用状況が急激に加速し、これからの時代、AIに代替されないスキルや、AIと協力して作業するスキルの習得が重要であると言われている。また、人口減少や少子高齢化、グローバル化等も進展し、これまでの社会の在り方や価値観が多様化していくと言われている。これからの社会を生きる子どもたちに、学校教育で大切にしたいこととは何か、そして、算数・数学を通して、子どもたちに大切にしてほしいこととは何かを、保護者と教職員が一緒になって考え、意見を出し合う貴重な機会にすることができた。

このように、算数・数学教育における不易と流行を踏まえ、子どもの「現在」と「未来」を見据えた実践発表は、参加者にとって非常に有益なものとなった。

III 今後に残された課題

○ 導入場面では、既習を想起させる工夫が足りなかったり、学習方法や内容の自己決定が十分にできなかったりするなどの課題が残った。また、振り返りの場面では、次時の学習を意識させるための手立てが十分ではなかったという発表があった。「個別最適化な学び」と、他者と協力して問題解決に取り組む「協働的な学び」の両立を図るため、個々のペースで学びを深めると同時に、チームで問題を解決する力を育てる授業を模索する必要がある。

○ 自由進度学習を進めた実践からは、「普段から積極的に子どもと関わり、特性をよく把握しておく必要があること、自由進度学習によって制限が解除された教員の時間を個別の見取りと指導助言に充てること、そして、授業をパターン化すること」と、課題を発表された。子どもたちの実態を踏まえ、自由進度学習と一斉学習を効率よく進めていく必要がある。